

第一回 JJ-100.01 第 4 版エディティング会合報告

[1] 要旨

本寄書は、2006 年 6 月 28 日に開催された第一回エディティング会合の結果、及び本会合で生じた新たな課題について報告する。

[2] JJ-100.01 第 4 版の改版箇所

JJ-100.01 第 4 版の改版箇所については以下の通り決定した。

- ・ 4 章に FTTR システムの参照モデルを追加
- ・ 7 章、8 章を新設し FTTR システムの管理手法、及び適合性判断基準を記載
- ・ 3 版以降にスペクトル適合性が確認された、標準化されたシステムを D 章に追加
- ・ 新システムの検討手順を局設置システムと FTTR システムに分けて E 章に記載
- ・ G 章を ITU-T G.993.2 で規定された PSD に変更
- ・ G 章にアマチュア無線についての記述を追加
- ・ I 章を新設しクワッドスペクトル ADSL、G 章 PSD+、FTTR システム参照 PSD を記載
- ・ J 章を新設し FTTR システムのスペクトル適合性計算方法（対局、FTTR 間）を記載

[3] 新たな課題

本会合で生じた新たな課題および課題に対する編集チームの提案は以下の通りである。

- ・ FTTR システムの収容制限を行うか？
提案) 行わない。
- ・ G.992.1 Annex I、クワッドスペクトル ADSL、G 章 PSD+ の各 PSD の計算式をどうするか？
提案) 勧告に傾きの記載があるものはこれを採用し、無いものはコーナーポイントから傾きを計算し、表中に計算式を記載する。（有効桁数、ITU-T（コーナーポイント重視）との差異について継続検討中）
- ・ RFI ノッチをどのように計算するか（不使用キャリアをどうするか）？
提案) 境界周波数の上下 4.3125KHz にかかる bin は使用不可とする。
- ・ G.992.1 等の PSD で、現在 30MHz まで規定されていない PSD をどうするか？
提案) 未規定の周波数帯の出力はマイナス無限大として計算する。
- ・ 1.1MHz 以上の SNR マージン（上り、下り）をどうするか？
提案) 上り下りとも全て 6 dB とする。
- ・ 「G 章 PSD+」の名称をどうするか？
提案) 検討中

[4] 今後の作業について

以下の分担により作業を継続中である。

- 7 章、8 章 : SBB 様
- A 章、B 章 : 住友電工様
- D 章 : 編集リーダ
- E 章 : イーアクセス様
- G 章 : NTT 東日本様
- H 章 : NTT 持株様
- I 章 : NTT 東日本様
- J 章 : 各社

以上